

**温暖化加速で信州農業苦慮**

年 組 名前

県内でも温暖化が加速しており、高原野菜の産地として知られるハケ岳山麓<sup>さんろく</sup>では特産のレタス栽培で高温対策が迫られ、コメの品種転換を進める農協もあります。記事を読んで、温暖化の農業への影響を考えてみましょう。

- ①長野ハケ岳農協管内のレタス産地は、何という村ですか。標高はどのくらいですか。また、どんな特徴を生かして、レタス栽培をしていますか。

村—

標高—

特徴—

- ②気象庁の地域気象観測システム「アメダス」で、野辺山観測点で最高気温が25度以上を記録した平均日数は、どう変化していますか。表に日数を書きましょう。

1980年代	90年代	2000年代	10年代

- ③温暖化により、レタス栽培の主な栽培期間は、今後どうなる見通しですか。また、高温化に対応するため同農協が続けていることは、何ですか。

見通し—

続いていること—

- ④コメの温暖化対策として、信州うえだ農協管内では、何が課題となっていたのですか。コシヒカリの一部を「風さやか」に転換することで、なぜ課題が解決できるのですか。

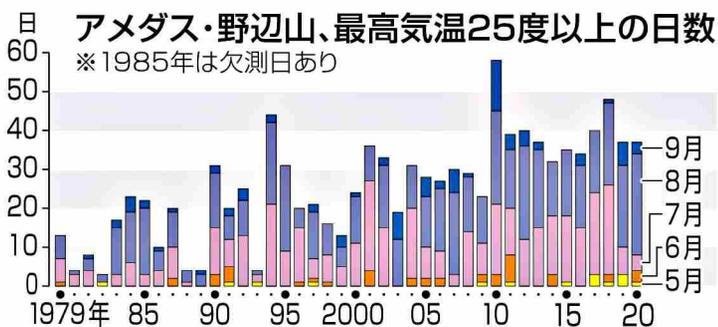
課題—

理由—

- ⑤同農協が風さやかに力を入れる背景には、温暖化の他に何がありますか。

# 温暖化加速で 信州農業苦慮

## 高原野菜も 稲作も



レタスの作付けの準備が進む畑＝4月26日、南牧村野辺山

# レタス 八ヶ岳山麓 暑さ対策に懸命 コメ 収穫時期遅い新品種へ転換

今春の桜の開花日が各地でも早い記録を更新するなど温暖化が加速する県内。高原野菜の産地として知られる八ヶ岳山麓では特産のレタス栽培が高温対策を迫られ、コメの品種転換を進める農協もある。今後、農業への影響はさらに広がるとの予想もあり、食の専門家は「生産者の課題としてだけでなく、消費者も関心を寄せていく必要がある」と訴えている。

(編集委員 藤森秀彦)



全国有数のレタス産地を抱える長野八ヶ岳農協(本所・南佐久郡南牧村)。南佐久郡南牧村や川上村の標高800～1300mに畑が広がり、冷涼な気候を生かして夏場を中心に出荷している。

同農協農業部企画振興課の篠原康彦課長は「今春は気温が高めに推移しており、農作業は例年より10日以上も早い。近年にない状況」と指摘。今後のレタス栽培への影響を気に掛ける。

農作物への暑さの影響が顕著になったのはここ20年ほどという。レタスの生育に適した気温は20度前後とされるが、最高気温が25度を超える日数が着実に増えている。気候の変化に伴い、病気やひょう被害などに遭ってきた。

気象庁の地域気象観測システム「アメダス」の野辺山観測点(南牧村、1350m)のデータを基に、最高気温25度以上を記録した日が年間にどれだけあったか調べてみた。1980年代が平均11.5日だったのに対し、90年代は22.5日へと倍増。2000年代は28.0日、さらに10年代は40.0日に達した。近年は最高気温が30度を超える日も出ている。

レタス栽培の今後を見通すと、主な栽培期間はこれまでの6～9月の4カ月間から、5月

## 専門家「消費者も関心持って」

中旬～10月中旬の5カ月間ほどに延びる。一方で、夏季の暑さ対策がさらに強く求められるという。

高温化に対応するため、同農協は農家に推奨するレタス品種の見直しを続けている。「この20年間の品種選びはまさに暑さ、干ばつ対策だった」と篠原課長。同農協が試験的に栽培するレタスの品種は年間40～50種ほどに上る。ただ、「新たな品種が、今後の暑さに追い付いていけないのか心配」とも語った。

コメの温暖化対策として信州うたが農協(本所・上田市)は、主力品種コシヒカリの一部について、県農業試験場(須坂市)が開発し、13年に登録された品種「風さやか」への転換を進めている。

1品種のみを栽培する場合、刈り取りが最後になる稲は暑さにさらされる期間が長くなり、米粒にひびが入る恐れがある。「胴割れ」と呼ばれ、コメの品質を落とす要因となる。同農協管内ではコシヒカリの刈り遅れによる胴割れが課題となっていた。

そこで同農協は、収穫時期がコシヒカリより遅い風さやかに注目。コシヒカリの一部を風さやかに転換し、先にコシヒカリを、その後風さやかに刈り取ることで、それぞれの適期に収

穫するよう努めている。同農協によると、風さやかの収穫期はコシヒカリより10日ほど遅いという。

管内で12年に本格的に始めた風さやかの栽培面積は着実に増加。19年は153畝、本年度は過去最多の約180畝の作付けを見込む。管内のコメの栽培面積約2200畝の8%ほどを占める見通しだ。

同農協が風さやかの栽培に力を入れる背景には、農家の高齢化と後継者不足もある。大規模農家や農業法人などにコメ栽培を委託するケースが増えており、管内の栽培面積全体の6割近くに達している。栽培規模が50畝に上る法人もある。栽培が集約されたことで、収穫作業を分散する必要が生じたという。

温暖化による県内農産物への影響を探るため、県は17年度まで4年間かけてレタス、コメ、リンゴの生育について調べた。レタスは高温になると花芽が伸びて商品価値が低下し、コメは種子が発育する「登熟期」の高温で胴割れが生じ等級が下がりやすい。リンゴは果皮の色や糖度などが低下し、成熟不良の割合が増える傾向が表れた。

県は対応策の研究を進めているが、温暖化のスピードがさらに上がれば産地に大きな打撃が及びかねない。それは私たちの「食の風景」を変えることにもつながる。長野県立大の中沢弥子教授(食文化研究)は「農産物がどのように栽培されているのか、消費者も知ることが大切。生産者につながることでサポーターになることができる」と話している。

## 温暖化加速で信州農業苦慮

## 解答例

年 組 名前

県内でも温暖化が加速しており、高原野菜の産地として知られるハケ岳山麓<sup>さんろく</sup>では特産のレタス栽培で高温対策が迫られ、コメの品種転換を進める農協もあります。記事を読んで、温暖化の農業への影響を考えてみましょう。

①長野ハケ岳農協管内のレタス産地は、何という村ですか。標高はどのくらいですか。また、どんな特徴を生かして、レタス栽培をしていますか。

村— 南佐久郡南牧村や川上村

標高— 800～1300<sup>m</sup>

特徴— 冷涼な気候

②気象庁の地域気象観測システム「アメダス」で、野辺山観測点で最高気温が25度以上を記録した平均日数は、どう変化していますか。表に日数を書きましょう。

1980年代	90年代	2000年代	10年代
11.5日	22.5日	28.0日	40.0日

③温暖化により、レタス栽培の主な栽培期間は、今後どうなる見通しですか。また、高温化に対応するため同農協が続けていることは、何ですか。

見通し— これまでの6～9月の4カ月間から、5月中旬～10月中旬の5カ月間ほどに延びる

続いていること— 農家に推奨するレタス品種の見直し

④コメの温暖化対策として、信州うえだ農協管内では、何が課題となっていたのですか。コシヒカリの一部を「風さやか」に転換することで、なぜ課題が解決できるのですか。

課題— コシヒカリの刈り遅れによる胴割れ

理由— [例] 風さやかの収穫期はコシヒカリより10日ほど遅く、先にコシヒカリを、その後風さやかを刈り取ることで、それぞれの適期に収穫できる

⑤同農協が風さやかに力を入れる背景には、温暖化の他に何がありますか。

【解答】 農家の高齢化と後継者不足